

6. アンケート回答集計結果

PART 1：プロセスの把握のための質問

1. 活動は計画通りに行われましたか？

- 苗畑： 3人 80%以上計画どおり 1人 50%から 80%計画どおり □計画の 50%未満計画どおり
□造林： 3人 80%以上計画どおり 1人 50%から 80%計画どおり □計画の 50%未満計画どおり
□技術者への訓練： 1人 80%以上計画どおり 2人 50%から 80%計画どおり □計画の 50%未満計画どおり
□住民への普及： 1人 80%以上計画どおり 2人 50%から 80%計画どおり □計画の 50%未満計画どおり

→ ‘計画の 50%未満計画どおり’ と回答された方は理由を述べて下さい。

()

2. プロジェクトのモニタリングは十分に行われましたか？

- 苗畑： 3人 はい (80%以上) 1人 はい (50%~80%) □いいえ (50%未満)
□造林： 2人 はい (80%以上) 2人 はい (50%~80%) □いいえ (50%未満)
□技術者への訓練： 3人 はい (80%以上) 1人 はい (50%~80%) □いいえ (50%未満)
□住民への普及： 2人 はい (80%以上) 1人 はい (50%~80%) □いいえ (50%未満)

→ ‘いいえ’ と回答された方は理由を述べて下さい。

()

3. モニタリングの結果は事業の軌道修正に活かされましたか？

- 苗畑： 4人 はい □いいえ □どちらともいえない
□造林： 4人 はい □いいえ □どちらともいえない
□技術者への訓練： 2人 はい □いいえ 1人 どちらともいえない
□住民への普及： 3人 はい □いいえ □どちらともいえない

→行った軌道修正について具体的に記述して下さい。

- ()
- ・ 苗畑の管理体制の強化 (各セクションの役割の明確化)。
 - ・ モニタリングの結果に基づいて進むべき方向性が、日中専門家共、共通認識でき明確になった。苗畑試験等の追加を行った。
 - ・ 訓練対象者を広く多くの技術者を対象としていたが、それを今後とも林業技術に従事し、以前に訓練を受けた人の中からも前向きの人達も含め何度か訓練し、ポストプロジェクトを意識したものにする。

4. 日本人専門家 (長期・短期) と中国側専門家との関係は十分に構築されましたか？

- 4人 十分 □不十分 1人 どちらともいえない

→改善点や問題があれば教えて下さい。

- ()
- ・ 言語の問題は依然としてあるので、相互に相手側の言葉を学ぶ必要がある。
 - ・ 良い通訳がないので、日中双方の専門家が言葉を勉強しているが、時にコミュニケーションがうまくいかないことがある。
 - ・ 言葉の問題があり十分だとは言えない。

5・ 1. プロジェクトの受益者への事業への参加の呼びかけは十分に行われましたか？

4人 十分 不十分 1人 どちらともいえない

2. 受益者の反応は当初と現在とでは変化しましたか？

5人 受益者がより積極的に関与するようになった 変化なし 受益者の参加度合いが低くなった

→ ‘不十分’ と回答された方、どのような問題があったのか、また改善策を記述して下さい。

（ 弁公室カウンターパートは、プロジェクトのPRに積極的に行うようになり、自らの発案で事務室前にパネル展示箇所を作り、展示を実行しつつある。 ）

6. 中国側実施機関から積極的な支援が得られましたか？

(1) 予算配分面での支援面で

1人 はい 1人 いいえ 2人 どちらともいえない

コメント：涼山州自体が貧困地区であり、プロジェクト管理費の提供が困難。

(2) 適切なカウンターパートの割り当ての面で

3人 はい いいえ 2人 どちらともいえない

コメント：・熱心であるが、外国との協力は初めてなのでなかなか積極的に出てこない。
・苗畑経験のある人物が望ましい。

7. プロジェクトの効果を促進するために、プロジェクト実施のプロセスにおいて工夫がなされましたか？

4人 はい いいえ どちらともいえない。

コメント：・地元政府、地元住民との会話をなるべく行うようにしている。

- ・日本人専門家と中国専門家に分けずに、一つのチームで（全体で）あるということを基本とした。
- ・打合せ等で随時検討している。
- ・途中から来たのでよく解らない。

PART 2 : 5 項目評価のための質問

1. 妥当性

1.1 本プロジェクトは国家の現在の政策に整合していますか？

5人 80%以上整合している 50%から80%くらい整合している 50%未満整合している

国家政策の中で、他の事業に比べた場合、本事業の緊急度は高いですか？

3人 とても緊急度が高い 1人 緊急度は高い 緊急度はあまり高くない 緊急度は低い

1.2 本プロジェクトは四川省の現在の政策に整合していますか？

5人 80%以上整合している 50%から80%くらい整合している 50%未満整合している

四川省の政策の中で、他の事業に比べた場合、本事業の緊急度は高いですか？

4人 とても緊急度が高い 1人 緊急度は高い 緊急度はあまり高くない 緊急度は低い

1.3 本プロジェクトは、ターゲットグループ（西昌市、喜徳県、昭覚県の住民）のニーズに合致していると思われますか？

プロジェクト開始時の住民のニーズとの整合性

- 苗畑： 2人 とてもニーズが高い 2人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
□造林： 2人 とてもニーズが高い 2人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
□技術者への訓練： 1人 とてもニーズが高い 2人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
□住民への普及： 2人 とてもニーズが高い 1人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い

→ ‘ニーズはあまり高くない’ ‘ニーズは低い’ と回答された方は理由を述べて下さい。

()

現在の住民のニーズとの整合性

- 苗畑： 3人 とてもニーズが高い 1人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
□造林： 3人 とてもニーズが高い 1人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
□技術者への訓練： 2人 とてもニーズが高い 1人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
□住民への普及： 2人 とてもニーズが高い 1人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い

→ ‘ニーズはあまり高くない’ ‘ニーズは低い’ と回答された方は理由を述べて下さい。

()

1.4 本プロジェクトの選定にあたり、いくつかの調査が行われ、本プロジェクトが選定されましたが、その選定過程は妥当でしたか？

3人 はい □いいえ 2人 どちらともいえない

1.5 本プロジェクト目標（安寧河流域の西昌市、喜徳県および昭覚県において、自立的に造林活動を実施する基盤が形成される）の達成のために、プロジェクト方式技術協力方式（日本人専門家派遣による技術指導、相手国関係者の研修受け入れ、機材供与の組み合わせによる協力）が選定されたことは妥当でしたか？

3人 はい □いいえ 2人 どちらともいえない

その他にふさわしい協力方式があったと考えられますか？その他、他のスキームとの連携に関するご意見・ご提案等がありますか？

- ()
- ・ 地元住民が造林するにあたって最低限の生活レベルを確保する必要があると考える。このため、生活レベルを向上させる（貧困対策に資する）協力が必要と思われる。
 - ・ 現在の JICA の協力方式では難しい。生態保護と貧困は表裏一体になっているので、総合的な協力が必要。現在協力隊との組合せで、貧困地区の教育・医療を考えている。（森貞）
 - ・ 特に貧困地域では、生活条件が厳しいため、衛生分野など林業分野以外の他方面からの下支え・支援も必要と考える。

1.6 他のプロジェクト（他国や日本の他のプロジェクト）との整合性はありますか？

他のプロジェクト名：経済林（ユーカリ）、遠隔教育（WB）、湖北林木育成中（JICA）
中国四川省安寧河流域造林計画調査（JICA）

整合性の有無： 1人 整合性あり 整合性なし

コメント：・生態型保護や森林保護は、総合的に措置が必要。湖北林木とは種子の提供や、造林地での試験で協力。
・中国四川省安寧河流域造林計画調査に基づき現在無償の申請を検討中。
・人工林・育種等とは関連はあるが、直接的ではない。

1.7 プロジェクトに利用された日本の技術の優位性はありますか？

苗畑： 5人 はい いいえ どちらともいえない

造林： 4人 はい いいえ どちらともいえない

技術者への訓練： 2人 はい いいえ 1人 どちらともいえない

住民への普及： 2人 はい いいえ 1人 どちらともいえない

→ ‘いいえ’ と回答された方は理由を述べて下さい。

2. 有効性

2.1. 1. プロジェクト目標（安寧河流域の西昌市、喜徳県および昭覚県において、自立的に造林活動を実施する基盤が形成される）の達成度合いは現在のところ期待どおりですか？

1人 80%以上期待どおり 3人 50%から80%期待どおり 1人 計画の50%未満期待どおり

2. それらは、プロジェクトの成果¹によってもたらされましたか？

はい（80%以上） 4人 はい（50%から80%） 1人 どちらかというとはい（50%未満） いいえ（0%）
中国の政策によりもたらされた部分もある。

2.2. 成果（1～4）が見られたが、プロジェクト目標（安寧河流域の西昌市、喜徳県および昭覚県において、自立的に造林活動を実施する基盤が形成される）の達成への貢献度が低かったものはありますか？

成果1 成果2 1人 成果3 成果4

→理由と改善策を記述して下さい。

¹ 成果1. プロジェクトエリアの自然条件・社会条件に適した造林用苗木の生産技術が開発される。成果2. プロジェクト外エリアの自然条件・社会条件に適する、主に水土保全を目的とした造林技術が開発される。成果3. 育苗・造林活動を管理・実施・普及する技術者が養成される。成果4. 地域住民に森林保全の重要性が理解され、育苗・造林技術が普及される。

2.3. プロジェクト目標（安寧河流域の西昌市、喜徳県および昭覚県において、自立的に造林活動を実施する基盤が形成される）の達成は、他のプロジェクトや外部条件²によってプラスまたはマイナスの影響を受けましたか？

3人 大きく受けた 少し受けた 2人 全く受けない どちらともいえない

→具体的に記述してください。

- ・ 中国の二大プロジェクト「退耕還林」、「天然保護」が同時に展開しており、プロジェクトからの技術及び管理方法が広がっていく基盤がある。
- ・ 植栽気運が高まり、地域がモデル造林地区と同様手法で造林が行われ始めている。

3. 効率性

3.1 投入（日本側、中国側）に見合った成果(1~4)が達成されていますか？

- 苗畑の成果： 5人 はい（80%以上） ほぼ見合っている（50%から80%） いいえ（50%未満）
- 造林の成果： 4人 はい（80%以上） ほぼ見合っている（50%から80%） いいえ（50%未満）
- 技術者への訓練成果： 1人 はい（80%以上） 2人 ほぼ見合っている（50%から80%） いいえ（50%未満）
- 住民への普及の成果： 2人 はい（80%以上） 1人 ほぼ見合っている（50%から80%） いいえ（50%未満）

3.2 より効率的に実施できる投入や活動はあったと思われる場合以下に記述して下さい。

- 造林：
- 苗畑：
- 技術者への訓練：
- 住民への普及：

3.3 投入の量、質、タイミングの適正度

3-3-1 日本側

a) 1.日本人専門家派遣の人数、技術レベル、タイミングは適当でしたか？

- 苗畑： 5人 適当 不適当 どちらともいえない
- 造林： 4人 適当 不適当 どちらともいえない
- 技術者への訓練： 1人 適当 1人 不適当 2人 どちらともいえない
- 住民への普及： 1人 適当、 1人 不適当 2人 どちらともいえない、

2.専門家間の役割分担は適当でしたか？

- 専門家の役割分担： 3人 適当 不適当 2人 どちらともいえない

→‘不適当’と回答された場合、その理由を述べてください。

- ・ 訓練と普及を一人の専門家が担当するのは、実質的に無理がある。
- ・ 中国の事情、言語がわからない日本人がこの分野を指導するのは難しい。（日本の技術をすぐには使えない）

² プロジェクトの成功のためには重要な条件であり、しかし、プロジェクトではコントロールできないが、その条件が満たされる可能性は高い条件のこと。例えば、上位政策の変更がないことや、大きな自然災害が起こらない、等が外部条件としてあげられる。

b)カウンターパート研修の時期や質、タイミングは適切でしたか？

- 苗畑： 4人 適切 □不適当 □どちらともいえない
□造林： 4人 適切 □不適当 □どちらともいえない
□技術者への訓練： 2人 適切 □不適当 □どちらともいえない
□住民への普及： 2人 適切 □不適当 □どちらともいえない

→ ‘不適当’と回答された場合、その理由を述べてください。

（時期、質、タイミングは適切であったが、量（人数）を増やす必要がある。）

c) 機材供与は量、質、タイミングともに適性でしたか？

- 苗畑： 4人 適切 □不適当 □どちらともいえない
□造林： 4人 適切 1人 不適当 □どちらともいえない
□技術者への訓練： 3人 適切 □不適当 □どちらともいえない
□住民への普及： 3人 適切 □不適当 □どちらともいえない

‘不適当’と回答された場合、その理由や改善点（例、国内調達にすべき等）を述べてください。

（日本調達にした場合に、機材が到着するまでに時間がかかりすぎる。→中国国内の調達を増やした。機材調達に係る資料作成量・回数が多すぎ、通常の業務に支障が出る。このことから機材調達量を減らしている。）

d) 現地業務費（一般現地業務費、現地適応化事業費）は効率的に使われましたか？

- 苗畑： 4人 はい □いいえ □一部効率的でなかった
□造林： 4人 はい □いいえ □一部効率的でなかった
□技術者への訓練： 3人 はい □いいえ □一部効率的でなかった
□住民への普及： 3人 はい □いいえ □一部効率的でなかった

→ ‘いいえ’または‘一部効率的でなかった’と回答された場合、その理由や改善点を述べてください。

3-3-2 中国側

a) 1.中国人専門家派遣の人数、技術レベル、タイミングは適切でしたか？

- 苗畑： 2人 適切 □不適当 2人 どちらともいえない
□造林： 4人 適切 □不適当 □どちらともいえない
□技術者への訓練： 2人 適切 1人 不適当 □どちらともいえない
□住民への普及： 2人 適切 1人 不適当 □どちらともいえない

2. 専門家間の役割分担は適当でしたか？

□ 専門家の役割分担： 4人 適当 □ 不適当 1人 どちらともいえない

→ ‘不適当’ と回答された場合、その理由を述べてください。

〔普及と訓練は実質的に一人のC/Pが実施しているため、マンパワーが不足しているため、このC/Pは非常に優秀であるが、一人では十分に活動が展開できない。〕

b) プロジェクトサイトの土地、建物、設備の提供に関し、質、規模、タイミングは適当でしたか？

- 苗畑： 4人 適当 □ 不適当 □ どちらともいえない
□ 造林： 4人 適当 □ 不適当 □ どちらともいえない
□ 技術者への訓練： 3人 適当 □ 不適当 □ どちらともいえない
□ 住民への普及： 3人 適当 □ 不適当 □ どちらともいえない

→ ‘不適当’ と回答された場合、その理由を述べてください。

〔事務所が冬寒く、夏暑い。〕

c) プロジェクトの運営経費は効率的に行われましたか？

- 苗畑： 4人 はい □ いいえ □ 一部効率的でなかった
□ 造林： 4人 はい □ いいえ □ 一部効率的でなかった
□ 技術者への訓練： 3人 はい □ いいえ □ 一部効率的でなかった
□ 住民への普及： 3人 はい □ いいえ □ 一部効率的でなかった

→ ‘いいえ’ と回答された場合、その理由や改善点を述べてください。

3.4 投入の活用度・定着度

a) 日本側投入は十分に活用されていますか？

- 日本人専門家： 5人 十分 □ 不十分 □ どちらともいえない
C/P 日本研修： 4人 十分 □ 不十分 1人 どちらともいえない
機材供与： 5人 十分 □ 不十分 □ どちらともいえない
現地業務費： 5人 十分 □ 不十分 □ どちらともいえない

→ ‘不十分’ と回答された場合、その理由や改善点を述べてください。

b) 中国側投入は十分に（無駄なく）活用されていますか？

中国人専門家： 5人 十分 不十分 どちらともいえない
土地、建物、設備： 5人 十分 不十分 どちらともいえない
プロジェクト運用経費： 4人 十分 不十分 1人 どちらともいえない

→ ‘不十分’ と回答された場合、その理由や改善点を述べてください。

[]

4. インパクト

4.1 プロジェクトの完成後4—5年後に上位目標（四川省生態環境建設計画に基づき、安寧河流域において政府及び地域住民による造林活動が持続的に実施される）の達成見込みはありますか？

4人 80%以上計見込まれる 1人 50%から80%見込まれる 50%未満見込まれる

→その阻害要因、貢献要因は何ですか？

[]

- ・ 中国側の政策が引き続き継続されるかどうか。
- ・ 中国の政策的バックアップがあるため、プロジェクトで提供する技術（特に管理技術と仕事の考え方）は、林業部門に定着し、地域住民が森林と共生する方向を指すことが出来る。
- ・ 政策が変わること。財政状況が悪くなること。

4.2 プロジェクトの実施によって、計画時には予期しなかった、プラス・マイナスの影響（政策、経・財政、組織・制度、技術、社会・文化）はありますか？または、将来あると見込まれますか？

1人 現在ある 3人 将来あるかもしれない 1人 現在ない 将来もないだろう

→「現在ある」または「将来あるかもしれない」と答えた方は具体的に記述してください。

[]

- ・ 林業局、林業庁の組織変更があったことから、今後も組織の改変等、実施されるかもしれない。
- ・ 社会・文化：涼山州において日本との友好が深まる。技術：育苗技術が農民レベルで広がる。
- ・ 労務管理（変化のきざしあり）、普及手法の参加型導入により、上位下達の社会から、農民の意見の上位への反映が出てくると思う。

5. 自立発展性

5.1 開発政策の一環としての事業の持続性は見込まれますか？

3人 80%以上計見込まれる 1人 50%から80%見込まれる 50%未満見込まれる

5.2 実施機関に国家財政から本プロジェクトの持続のための予算を確保する能力は見込まれますか？

3人 80%以上計見込まれる 2人 50%から80%見込まれる 50%未満見込まれる

5.3 実施機関に今後も事業を実施していくための組織能力（技術能力、人事管理能力）は、見込まれますか？

- 苗畑：2人 80%以上計見込まれる 2人 50%から80%見込まれる □50%未満見込まれる
□造林：3人 80%以上計見込まれる 1人 50%から80%見込まれる □50%未満見込まれる
□技術者への訓練：2人 80%以上計見込まれる 1人 50%から80%見込まれる □50%未満見込まれる
□住民への普及：2人 80%以上計見込まれる 1人 50%から80%見込まれる □50%未満見込まれる

→「50%未満見込まれる」と回答された方は、理由と改善策についてご提案ください。

5.4 林業庁に所属する養成された技術者が定着し活動を継続していく見込みはありますか？

- 2人 80%以上計見込まれる 3人 50%から80%くらい見込まれる □50%未満見込まれる

→「50%未満見込まれる」と回答された方は、理由と改善策についてご提案ください。

5.5 プロジェクトのターゲットグループである住民の造林活動参加は見込まれますか？

- 3人 80%以上計見込まれる 2人 50%から80%くらい見込まれる □50%未満見込まれる

→「50%未満見込まれる」と回答された方は、改善策についてご提案ください。

5.6 自立発展性を高めるために、造林活動の経費の一部を住民が受益者負担する方法を考えていますか？

- 1人 はい 3人 いいえ

コメント：

はい

- ・ 苗木・道具+技術の提供→技術習得+労務提供
- ・ 造林地の保育管理を村民が負担する。(将来)

いいえ

- ・ 受益者が誰なのか明確でない。(例えば長江流域に住む全住民から受益者負担金を取ることはできない。)
- ・ 受益する額が明確にならない。(造林した樹木が今後とも生育・生長するかどうかわからない。)
- ・ プロジェクト期間中はないと思われるが、退耕還林等ですすでに行われている。

6. その他

このプロジェクトについてコメントや提案があれば、ご自由に述べてください。

ご協力どうもありがとうございました。

PART 1 : プロセスの把握のための質問

1. 活動は計画通りに行われましたか？

- 苗畑： **27人** 80%以上計画どおり □50%から80%計画どおり □計画の50%未満計画どおり
□造林： **29人** 80%以上計画どおり □50%から80%計画どおり □計画の50%未満計画どおり
□技術者への訓練：**28人** 80%以上計画どおり **1人** 50%から80%計画どおり □計画の50%未満計画どおり
□住民への普及：**28人** 80%以上計画どおり **1人** 50%から80%計画どおり □計画の50%未満計画どおり

→ ‘計画の50%未満計画どおり’ と回答された方は理由を述べて下さい。

()

2. プロジェクトのモニタリングは十分に行われましたか？

- 苗畑： **27人** はい(80%以上) □はい(50%~80%) □いいえ(50%未満)
□造林： **29人** はい(80%以上) □はい(50%~80%) □いいえ(50%未満)
□技術者への訓練：**29人** はい(80%以上) □はい(50%~80%) □いいえ(50%未満)
□住民への普及：**24人** はい(80%以上) **5人** はい(50%~80%) □いいえ(50%未満)

→ ‘いいえ’ と回答された方は理由を述べて下さい。

()

3. モニタリングの結果は事業の軌道修正に活かされましたか？

- 苗畑： **27人** はい □いいえ □どちらともいえない
□造林： **27人** はい □いいえ □どちらともいえない
□技術者への訓練：**28人** はい □いいえ □どちらともいえない
□住民への普及：**28人** はい □いいえ □どちらともいえない

→行った軌道修正について具体的に記述して下さい。

(造林において、樹種の選択に対する2年以上のモニタリングを経て、異なる立地条件に合わせて、スミスユーカリなどの早生多収穫林(中国語：速成豊産林)を増やすなど樹種の調整を行なった。

4. 日本人専門家(長期・短期)と中国側専門家との関係は十分に構築されましたか？

- 23人** 十分 □不十分 □どちらともいえない

→改善点や問題があれば教えて下さい。

- (
- ・ 日中双方の専門家はお互いに尊重し、理解しながら、より強い信頼関係を結んで技術交流を行なうべきである。技術の運用においては、実際状況に合わせるべきである。
 - ・ 交流が強化され、お互いに相手国の言葉を習得した。(3名)
 - ・ 交流を増やすべきである。中国側カウンターパートの日本語レベルを高める必要がある。
-)

5.1. プロジェクトの受益者への事業への参加の呼びかけは十分に行われましたか？

29人 十分 不十分 どちらともいえない

2. 受益者の反応は当初と現在とでは変化しましたか？

25人 受益者がより積極的に関与するようになった 変化なし 受益者の参加度合いが低くなった

→ ‘不十分’ と回答された方、どのような問題があったのか、また改善策を記述して下さい。

[]

6. 中国側実施機関から積極的な支援が得られましたか？

(1) 予算配分面での支援面で

24人 はい 4人 いいえ どちらともいえない

コメント：中国側が負担できる経費が限られているため、プロジェクト予算に補助的な経費を増やしてほしい。

(2) 適切なカウンターパートの割り当ての面で

29人 はい いいえ どちらともいえない

コメント：中国側専門家との連絡や交流を密にすべきである。

7. プロジェクトの効果を促進するために、プロジェクト実施のプロセスにおいて工夫がなされましたか？

28人 はい いいえ どちらともいえない。

PART 2：5項目評価のための質問

1. 妥当性

1.1 本プロジェクトは国家の現在の政策に整合していますか？

29人 80%以上整合している 50%から80%くらい整合している 50%未満整合している

国家政策の中で、他の事業に比べた場合、本事業の緊急度は高いですか？

13人 とても緊急度が高い 16人 緊急度は高い 緊急度はあまり高くない 緊急度は低い

1.2 本プロジェクトは四川省の現在の政策に整合していますか？

17人 80%以上整合している 1人 50%から80%くらい整合している 50%未満整合している

四川省の政策の中で、他の事業に比べた場合、本事業の緊急度は高いですか？

12人 とても緊急度が高い 17人 緊急度は高い 緊急度はあまり高くない 緊急度は低い

1.3 本プロジェクトは、ダーゲットグループ（西昌市、喜徳県、昭覚県の住民）のニーズに合致していると思われませんか？

プロジェクト開始時の住民のニーズとの整合性

- 苗畑： 8人 とてもニーズが高い 17人 ニーズは高い 2人 ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
- 造林： 10人 とてもニーズが高い 19人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
- 技術者への訓練： 15人 とてもニーズが高い 14人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
- 住民への普及： 11人 とてもニーズが高い 18人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い

→ ‘ニーズはあまり高くない’ ‘ニーズは低い’ と回答された方は理由を述べて下さい。

（地元では一定数の苗木を保有する苗畑がある。北方の苗木に対する認識が浅い。市場から苗木を購入することに馴染んでおり、又は苗木さえあれば、樹種や品質を問わず植える傾向がある。）

現在の住民のニーズとの整合性

- 苗畑： 8人 とてもニーズが高い 19人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
- 造林： 11人 とてもニーズが高い 18人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
- 技術者への訓練： 11人 とてもニーズが高い 18人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い
- 住民への普及： 13人 とてもニーズが高い 16人 ニーズは高い □ニーズはあまり高くない □ニーズは低い

→ ‘ニーズはあまり高くない’ ‘ニーズは低い’ と回答された方は理由を述べて下さい。

14 本プロジェクトの選定にあたり、いくつかの調査が行われ、本プロジェクトが選定されましたが、その選定過程は妥当でしたか？

29人 はい □いいえ □どちらともいえない

15 本プロジェクト目標（安寧河流域の西昌市、喜徳県および昭覚県において、自立的に造林活動を実施する基盤が形成される）の達成のために、プロジェクト方式技術協力方式（日本人専門家派遣による技術指導、相手国関係者の研修受け入れ、機材供与の組み合わせによる協力）が選定されたことは妥当でしたか？

29人 はい □いいえ □どちらともいえない

その他にふさわしい協力方式があったと考えられますか？その他、他のスキームとの連携に関するご意見・ご提案等がありますか？

- （
- ・ 本プロジェクトは現在進んでいる二大林業プロジェクト（退耕還林事業、天然林保護事業）とあわせて、技術、管理の面で提携を強化し、長所を取り入れあい、短所を避け、相乗効果を上げるべきである。
 - ・ 今後、造林用樹種について、地域住民のニーズを良く把握すべきである。
 - ・ 本プロジェクトの協力方式は非常に妥当である。
 - ・ 涼山州の林業分野の専門家1～2名を日本語研修に1年間受け入れることを希望している。これによって、日中双方のよりよい交流が出来ることを期待される。
 - ・ このような協力方式は非常に妥当である。範囲と規模を拡大することを検討してほしい。
 - ・ 継続案件の実施を期待する。継続案件の実施によって、本プロジェクトが得られた成果及びモデル効果をもっと広い範囲に普及させる。
- ）

16 他のプロジェクト（他国や日本の他のプロジェクト）との整合性はありますか？

他のプロジェクト名：

実施機関：

整合性の有無：6人 整合性あり 2人 整合性なし

コメント：

他のプロジェクト名：中国四川省安寧河流域造林開発調査
実施機関：国際協力事業団 中国国家林業局、四川省林業庁
整合性の有無：あり
コメント：

- ・ 調査対象地域の治山事業及び造林活動を重点的に展開すべきである。調査成果の事業化を速めるべきである。
- ・ その他の援助プロジェクトのことをもっと多く理解すべきである。
- ・ 他ドナー及び日本のその他の援助組織によるプロジェクトを導入し、プロジェクトエリアの各種事業を協調して進め、本プロジェクトが得られた成果を固める。

他のプロジェクト名：ドイツ援助による嘉陵江流域造林プロジェクト
実施機関：四川省林業庁
整合性の有無：なし

他のプロジェクト名：四川省ジャイアントパンダ保護区建設プロジェクト
整合性の有無：なし

1.7 プロジェクトに利用された日本の技術の優位性はありますか？

苗畑：26人 はい いいえ 2人 どちらともいえない

造林：26人 はい いいえ 3人 どちらともいえない

技術者への訓練：27人 はい いいえ 2人 どちらともいえない

住民への普及：27人 はい いいえ 2人 どちらともいえない

→ ‘いいえ’ と回答された方は理由を述べて下さい。

2. 有効性

2.1. 1. プロジェクト目標（安寧河流域の西昌市、喜徳県および昭覚県において、自立的に造林活動を実施する基盤が形成される）の達成度合いは現在のところ期待どおりですか？

24人 80%以上期待どおり 4人 50%から80%期待どおり 計画の50%未満期待どおり

2. それらは、プロジェクトの成果¹によってもたらされましたか？

24人 はい (80%以上) 1人 はい (50%から80%) どちらかというとはい (50%未満) いいえ (0%)

¹ 成果1. プロジェクトエリアの自然条件・社会条件に適した造林用苗木の生産技術が開発される。成果2. プロジェクトエリアの自然条件・社会条件に適する、主に水土保全を目的とした造林技術が開発される。成果3. 育苗・造林活動を管理・実施・普及する技術者が養成される。成果4. 地域住民に森林保全の重要性が理解され、育苗・造林技術が普及される。

2.2. 成果(1~4)が見られたが、プロジェクト目標(安寧河流域の西昌市、喜徳県および昭覚県において、自立的に造林活動を実施する基盤が形成される)の達成への貢献度が低かったものはありますか？

8人 成果1 1人 成果2 成果3 3人 成果4

→理由と改善策を記述して下さい。

- ・ 苗畑について、当初、喜徳県に試験苗畑を建設することを計画していたが、各種事情により、実現しなかった。よって、苗畑に関する知識は訓練時にしか習得できなかった。今後、苗畑の建設を希望する。
- ・ 成果(1~4)がはっきり見られた。貢献度が低い成果がない。
- ・ なし。貢献度が全て高いといえる。
- ・ 地域住民の意識向上には比較的長い期間が必要である。生態型林業が農民の現実的生活ニーズを満たすことの早期実現が難しい。
- ・ 農民は生態環境より、むしろ経済利益に大きな関心を持つといえる。今後、一部の経済林を造成し、又は生態林の造成に一定の経済的補助金を支給することを提案する。
- ・ 地域住民は生態型樹種の栽培に対する理解が低い。生態環境を考慮した経済樹種の栽培技術の普及に力を入れるべきである。これにより、住民の更なる参加と技術の更なる普及が期待される。
- ・ プロジェクトが最終的に完成していないため、普及においては内容の充実が必要である。

2.3. プロジェクト目標(安寧河流域の西昌市、喜徳県および昭覚県において、自立的に造林活動を実施する基盤が形成される)の達成は、他のプロジェクトや外部条件²によってプラスまたはマイナスの影響を受けましたか？

8人 大きく受けた 10人 少し受けた 4人 全く受けない どちらともいえない

→具体的に記述して下さい。

- ・ 本プロジェクトの実施は国が進めている二大林業プロジェクト——「天然林保護事業」、「退耕還林事業」に積極的に貢献している。コミュニティ住民の育苗技術、造林技術の向上にも役立っている。
- ・ 中国政府による生態環境建設への重視度により、特に「天然林保護事業」、「退耕還林事業」が実施されて以来、農民の生態環境保護意識の向上が目立つようになった。
- ・ 生態効果だけを考慮し造林を進めるならば、地域住民は直接的な、かつ目先の利益が見られないため、プロジェクト目標の達成は影響される懸念がある。
- ・ あえて言うと、プラス影響だと思う。国と地方政府は類似プロジェクトの実施を積極的に支援し、奨励しているためである。
- ・ 例えば、米・フォード基金が実施したコミュニティー林業プロジェクトによるプラス影響がある。
- ・ 種子の供給はプロジェクト目標達成への影響が比較的大きい。国が進めている「天然林保護事業」及び「退耕還林事業」は生態環境建設プロジェクトであり、本プロジェクトの実施に貢献し、プロジェクト目標の達成に一役買うものとして期待が寄せられている。
- ・ 生態環境建設は中国が進めている西部大開発への切り口であり、社会経済の高度な成長を遂げるための基礎でもある。生態環境建設事業の推進によって、住民の発展に対する認識、生活観点は進歩するであろう。従って、プロジェクト目標の達成にプラス影響を与える。
- ・ 国が重点的に進めている「天然林保護事業」と「退耕還林事業」はプロジェクト目標の実現に大きなプラス効果が期待される。

3. 効率性

3.1 投入(日本側、中国側)に見合った成果(1~4)が達成されていますか？

苗畑の成果: 23人 はい(80%以上) 4人 ほぼ見合っている(50%から80%) いいえ(50%未満)

造林の成果: 24人 はい(80%以上) 5人 ほぼ見合っている(50%から80%) いいえ(50%未満)

² プロジェクトの成功のためには重要な条件であり、しかし、プロジェクトではコントロールできないが、その条件が満たされる可能性は高い条件のこと。例えば、上位政策の変更がないことや、大きな自然災害が起こらない、等が外部条件としてあげられる。

- 技術者への訓練成果：**22人** はい（80%以上）**7人** ほぼ見合っている（50%から80%）□いいえ（50%未満）
□住民への普及の成果：**23人** はい（80%以上）**6人** ほぼ見合っている（50%から80%）□いいえ（50%未満）

3.2 より効率的に実施できる投入や活動はあったと思われる場合以下に記述して下さい。

（C/P は効果的であった点について回答。）

□苗畑：

- ・ プロジェクトのみを対象に苗木を提供しているため、西昌市は対象外となり、この面において、大きな効果がない。
- ・ 育苗技術が高まった。
- ・ 施行がプログラム化され、苗木の品質が高い。
- ・ 育苗技術が高まった。
- ・ 品質が高い苗木が算出された。技術移転や施設提供などの支援を行なった。

□造林：

- ・ 規範的な操作は苗木の活着率向上に大きく貢献した。
- ・ 造林活動を通じて、造林技術を地域住民に移転した。
- ・ プロジェクトエリアにおける住民は本プロジェクトを通じて、正確、かつ適用できる造林技術をマスターし、労務提供による収入を増やした。
- ・ 活着率が高い。現地に適した造林用苗木と造林技術が開発された。（2名）
- ・ 施行品質が高い。最も困難な造林地においても、比較的よい成績をおさめた。

□技術者向け訓練：

- ・ 新しい知見を身につけさせた。
- ・ 技術者の理論的知見を高めた。
- ・ 毎年1～2回集中訓練を行うことで、技術者に日中協力プロジェクトに対する認識を深めた。
- ・ 管理、実施、普及における技術者を養成した。（2名）
- ・ 技術者は本プロジェクトを理解するようになり、またある程度の専門知識が習得できた。
- ・ 訓練が及ぶ範囲が幅広い、受講者数が多い。幅広い関係機関から講師が派遣されている。

□住民向け訓練：

- ・ 住民は森林の役割を認識するようになった。
- ・ 広範な住民に環境保護知識を向上させた。
- ・ カレンダーや出版物の配布を通じて、地域住民に生態建設・保護の重要性を認識させた。地域住民は自主的に各種生態環境建設活動を参加するようになった。住民の間もプロジェクトや生態環境建設活動をテーマにし、各方式の交流を行なうようになった。
- ・ 森林保護の重要性を認識するようになった。（2名）
- ・ カレンダーなどを配布、各種大会を開催したため、広報が及ぶ範囲が広い。

3.3 投入の量、質、タイミングの適正度

3-3-1 日本側

a) 1.日本人専門家派遣の人数、技術レベル、タイミングは適当でしたか？

- 苗畑：**26人** 適当 □不適當 □どちらともいえない
□造林：**28人** 適当 □不適當 □どちらともいえない
□技術者への訓練：**28人** 適当 □不適當 □どちらともいえない
□住民への普及：**28人** 適当、□不適當、□どちらともいえない、

2.専門家間の役割分担は適当でしたか？

- 専門家の役割分担：**29人** 適当 □不適當 □どちらともいえない

→ ‘不適當’ と回答された場合、その理由を述べてください。

[]

b) カウンターパート研修の時期や質、タイミングは適當でしたか？

- 苗畑： **26人** 適當 **1人** 不適當 どちらともいえない
 造林： **25人** 適當 不適當 **1人** どちらともいえない
 技術者への訓練： **27人** 適當 不適當 どちらともいえない
 住民への普及： **27人** 適當 不適當 どちらともいえない

→ ‘不適當’ と回答された場合、その理由を述べてください。

[苗木管理活動が本格的に展開される前に、研修を受けた。]

c) 機材供与は量、質、タイミングともに適性でしたか？

- 苗畑： **27人** 適當 不適當 **1人** どちらともいえない
 造林： **27人** 適當 不適當 どちらともいえない
 技術者への訓練： **26人** 適當 不適當 **1人** どちらともいえない
 住民への普及： **25人** 適當 不適當 **1人** どちらともいえない

‘不適當’ と回答された場合、その理由や改善点（例、国内調達にすべき等）を述べてください。

[]

d) 現地業務費（一般現地業務費、現地適応化事業費）は効率的に使われましたか？

- 苗畑： **27人** はい いいえ 一部効率的でなかった
 造林： **27人** はい いいえ 一部効率的でなかった
 技術者への訓練： **25人** はい いいえ 一部効率的でなかった
 住民への普及： **25人** はい いいえ 一部効率的でなかった

→ ‘いいえ’ または ‘一部効率的でなかった’ と回答された場合、その理由や改善点を述べてください。

[]

3-3-2 中国側

a) 1. 中国人専門家派遣の人数、技術レベル、タイミングは適切でしたか？

- 苗畑： **29人** 適切 不適切 どちらともいえない
 造林： **29人** 適切 不適切 どちらともいえない
 技術者への訓練： **29人** 適切 不適切 どちらともいえない
 住民への普及： **29人** 適切 不適切 どちらともいえない

2. 専門家間の役割分担は適切でしたか？

- 専門家の役割分担： **24人** 適切 不適切 どちらともいえない

→ ‘不適切’ と回答された場合、その理由を述べてください。

()

b) プロジェクトサイトの土地、建物、設備の提供に関し、質、規模、タイミングは適切でしたか？

- 苗畑： **27人** 適切 不適切 どちらともいえない
 造林： **26人** 適切 不適切 どちらともいえない
 技術者への訓練： **26人** 適切 不適切 どちらともいえない
 住民への普及： **26人** 適切 不適切 どちらともいえない

→ ‘不適切’ と回答された場合、その理由を述べてください。

()

c) プロジェクトの運営経費は効率的に行われましたか？

- 苗畑： **27人** はい いいえ 一部効率的でなかった
 造林： **26人** はい いいえ 一部効率的でなかった
 技術者への訓練： **26人** はい いいえ 一部効率的でなかった
 住民への普及： **27人** はい いいえ 一部効率的でなかった

→ ‘いいえ’ と回答された場合、その理由や改善点を述べてください。

()

3.4 投入の活用度・定着度

a) 日本側投入は十分に活用されていますか？

日本人専門家： 29人 十分 不十分 どちらともいえない
C/P 日本研修： 25人 十分 不十分 3人 どちらともいえない
機材供与： 27人 十分 不十分 2人 どちらともいえない
現地業務費： 28人 十分 不十分 1人 どちらともいえない

→ ‘不十分’ と回答された場合、その理由や改善点を述べてください。

b) 中国側投入は十分に（無駄なく）活用されていますか？

中国人専門家： 27人 十分 不十分 2人 どちらともいえない
土地、建物、設備： 29人 十分 不十分 どちらともいえない
プロジェクト運用経費： 28人 十分 1人 不十分 どちらともいえない

→ ‘不十分’ と回答された場合、その理由や改善点を述べてください。

①地方財政が厳しい。②上部機関による割当金がない。③プロジェクト予算内に流用できる部分がない。

4. インパクト

4.1 プロジェクトの完成後4—5年後に上位目標（四川省生態環境建設計画に基づき、安寧河流域において政府及び地域住民による造林活動が持続的に実施される）の達成見込みはありますか？

23人 80%以上計見込まれる 6人 50%から80%見込まれる 50%未満見込まれる

→その阻害要因、貢献要因は何ですか？

プラス要因

- ・ 「モデル林」プロジェクト成果の普及・応用、退耕還林事業・天然林保護事業の継続展開、面積の拡大及び保存
- ・ 国が二大林業プロジェクトを進めること、地域住民は生態環境意識が高まったこと。
- ・ 国が生態環境を重視し、資金援助を行なったこと、また、継続的に展開されている「天然林保護事業」、「退耕還林事業」
- ・ 国が進めている天然林保護、退耕還林などの事業は継続されるものと期待される。このプラス効果が大きい。

マイナス要因

- ・ 開発調査「安寧河流域調査計画」の内容が事業化できない場合、上位目標の達成に一定の影響を及ぼす。
- ・ 地域住民から、造林活動を継続するために必要な資金を集める必要がある。
- ・ 涼山州は貧困地域で経済力が弱い場合、自力で厳しい生態環境を整備し造林活動を継続することが難しい。

コメント：

- ・ 達成の見込みは、育苗技術と造林技術の成熟度と住民によるそれらの習得度による。
- ・ 政府や住民の生態意識が高まる半面、植林活動から利益を受けたため、造成した林を破壊することをしないであろう。
- ・ 当プロジェクトの成否は、地域住民の文化素養、プロジェクト成果の活用度、自然災害の影響を受ける。
- ・ 当プロジェクトにより、国全体の体力の向上、地域住民の収入増加、社会の安定に繋がる。

4.2 プロジェクトの実施によって、計画時には予期しなかった、プラス・マイナスの影響（政策、経・財政、組織・制度、技術、社会・文化）はありますか？または、将来あると見込まれますか？

4人 現在ある 将来あるかもしれない 18人 現在ない 7人 将来もないだろう

→ 「現在ある」または「将来あるかもしれない」と答えた方は具体的に記述してください。

- ・ 現時点で出てくるのはプラスインパクトである。即ち、「退耕還林事業」と「天然林保護事業」の継続展開、広範な住民による林業技術（樹種の選択、造林技術、管理方式）へのニーズの向上、実用性が高い林業知識への関心の向上から、本プロジェクトの実施は地域住民の支持と自主参加を取得した。これは計画策定当初、予期できなかった結果でもある。今後は、プロジェクトが二大林業プロジェクトに成果を提供し、二大林業プロジェクトがプロジェクトを裏付けるという相乗効果が出てくるであろう。
- ・ 寒い高原地帯の気候条件が複雑で、育苗技術が多岐にわたる。
- ・ 中国側は財政上の事情により、カウンターパートに対し、相応する手当てを支給しないため、意欲性の向上に支障が出てくる。また、県・市及び末端組織の関係機関の意欲を引き起こす手段がないため、行政手段に依頼せざるをえない。
- ・ 中国側負担すべきローカルコストが計画通りに投下されないことがある。中国側の事務用経費は極めて不足している。

5. 自立発展性

5.1 開発政策の一環としての事業の持続性は見込まれますか？

19人 80%以上計見込まれる 8人 50%から80%見込まれる 1人 50%未満見込まれる

5.2 実施機関に国家財政から本プロジェクトの持続のための予算を確保する能力は見込まれますか？

13人 80%以上計見込まれる 12人 50%から80%見込まれる 2人 50%未満見込まれる

5.3 実施機関に今後も事業を実施していくための組織能力（技術能力、人事管理能力）は、見込まれますか？

苗畑： 23人 80%以上計見込まれる 3人 50%から80%見込まれる 50%未満見込まれる

造林： 27人 80%以上計見込まれる 2人 50%から80%見込まれる 50%未満見込まれる

技術者への訓練： 22人 80%以上計見込まれる 5人 50%から80%見込まれる 50%未満見込まれる

住民への普及： 23人 80%以上計見込まれる 4人 50%から80%見込まれる 50%未満見込まれる

→ 「50%未満見込まれる」と回答された方は、理由と改善策についてご提案ください。

5.4 林業庁に所属する養成された技術者が定着し活動を継続していく見込みはありますか？

25人 80%以上計見込まれる 3人 50%から80%くらい見込まれる 50%未満見込まれる

→ 「50%未満見込まれる」と回答された方は、理由と改善策についてご提案ください。

5.5 プロジェクトのターゲットグループである住民の造林活動参加は見込まれますか？

20人 80%以上計見込まれる 9人 50%から80%くらい見込まれる 50%未満見込まれる

→「50%未満見込まれる」と回答された方は、改善策についてご提案ください。

5.6 自立発展性を高めるために、造林活動の経費の一部を住民が受益者負担する方法を考えていますか？

6人 はい 21人 いいえ

コメント：

はい

- ・ プロジェクトは農家が育成した苗木を集め、現地で造林を行なうべきである。
- ・ 一部が負担可能である。(2名)

いいえ

- ・ 現在のところ、プロジェクトエリアで展開している造林活動は「モデル林」事業である。造林地は比較的厳しい環境に置かれている。プロジェクト終了までに、正確な実用技術と、現地に適する樹種の選定が確保されていない条件のもと、地域住民に造林費を負担させることは住民に後顧の憂いを来たすことになる。当然ながら、条件が整えば今後は実行可能で、必要性が高いものとなる。住民に受け入れられるものだと思う。現在進めているプロジェクトが苗木を提供し、住民が自主的に造林することは自立発展の基盤である。
- ・ 地域住民は造林費を負担する能力がない。(4名)
- ・ 生態林の造成は国や、国際援助組織が主導的行なうものとされるべきである。無償資金援助プロジェクトの実施を提案する。
- ・ 当該地域は少数民族が居住する貧困地域であるため、住民の負担をできる限り軽減すべきである。
- ・ 当該地域の地理的条件から、造林樹種は保護機能がある生態林とすべきである。加えて、地域住民の収入が高くない。従って、地域住民に一部の造林費を負担させることが難しい。

6. その他

このプロジェクトについてコメントや提案があれば、ご自由に述べてください。

- ・ 本プロジェクトで得られる技術を普及させ、それを現在進めている二大林業プロジェクトー「天然林保護事業」、「退耕還林事業」に応用させるため、本市にプロジェクト苗畑を建設し、種苗の面において、二大林業事業に合わせるようとする。また、本プロジェクトで開発した造林技術を活用させる。これにより、「モデル林」の成果が安寧河流域において普及、活用されるようになる。このほか、安寧河流域造林計画の早期実施、日中技術協力の新たな展開を期待している。
- ・ モニタリング及び評価の時間を適切に短縮すべきである。
- ・ 1. 経済林の栽培を適切に検討することを期待している。
- ・ 2. 現在、中国の所有制構造調整政策に合わせて実施することを期待している。
- ・ 3. プロジェクトの協力期間を延ばし、治山の内容を増やすことを期待している。
- ・ 本プロジェクトを通じて、より幅広い範囲で日中政府間プロジェクトを展開し、生態環境の推進を促し、両国民の友情を深めることを期待している。
- ・ プロジェクト範囲をその他の地域に拡大することを提案する。

ご協力どうもありがとうございました。

7. アンケート質問票（中文）

中国四川省示范林营造项目联合评估(中期评估)
提问表

2003年1月6日

该提问表在2003年1月13日至29日派遣的日方中期评估调查团来华之前，提交至各位手中。中期评估是JICA项目周期中的一个环节，目的为“在项目进展到合作期的一半时，重点对项目成果、效率性、妥当性进行评估，并根据需要修订计划”。

JICA的评估方针是在确认项目“事实”的基础上，使用PDM¹(Project Design Matrix: 项目计划概要表)，以“5个评估科目”为重点实施评估。换句话说，就是在确认项目的“实际状况”“程序”的基础上，从5个方面(妥当性、有效性、效率性、影响、独立发展性)多层次对项目的好坏进行判断，以发现项目成果、分析影响项目发展的主要因素为目的进行评估。附件1为PDM与5个评估科目之间的关系，以供参考。

中期评估调查团在编制评估报告书时，需要确认日方专家与中方对口专家对项目的评估，以此目的制作了该提问表，同时，该提问表由以下2个方面构成：1)为掌握实施程序设定的提问、2)为进行5个科目评估设定的提问。各位在回答时，请参照本项目的PDM(附件2)与PO。如果问题不在各位负责的领域，也请尽可能在知晓的范围内给予回答。各位的回答对改善本项目，乃至改善JICA事业都将发挥重要作用，因此希望各位能够坦诚地提出高贵意见。

谢谢各位的合作。

JICA 评估团

请在该栏内填写回答者的情况。

(填写日期：2003年1月 日)

姓名：

性别： 男/女

负责领域：

所属部门：

职位：

联系方式： TEL：

FAX：

E-mail：

¹ PDM 在项目计划阶段制作，在通过项目监测、中期评估等对计划进行修订时，该 PDM 随之变化。本项目的 PDM 与 PO (Plans of Operations : 活动计划表)一同在 2001 年 1 月 16 日召开的运营指导(计划协商)会议上得到确认(附件 2)。在 PDM 中，逻辑地记载了项目的最终目标、项目目标、成果、活动、投入等项目的构成要素。

PART 1 : 为掌握项目程序设定的提问

1. 活动是否按计划进行?

- 苗圃: 80%以上按计划进行 50%至 80%按计划进行 按计划进行部分不足 50%
- 造林: 80%以上按计划进行 50%至 80%按计划进行 按计划进行部分不足 50%
- 面向技术人员的培训: 80%以上按计划进行 50%至 80%按计划进行 按计划进行部分不足 50%
- 面向居民的普及、推广: 80%以上按计划进行 50%至 80%按计划进行 按计划进行部分不足 50%

→如选择“按计划进行部分不足 50%”, 请阐述理由:

()

2. 是否充分实施了项目监测?

- 苗圃: 是 (80%以上) 是 (50%~80%) 否 (50%以下)
- 造林: 是 (80%以上) 是 (50%~80%) 否 (50%以下)
- 面向技术人员的培训: 是 (80%以上) 是 (50%~80%) 否 (50%以下)
- 面向居民的普及、推广: 是 (80%以上) 是 (50%~80%) 否 (50%以下)

→如选择“否”, 请阐述其理由:

()

3. 监测结果是否应用到对项目计划进行调整上?

- 苗圃: 是 否 难以判断
- 造林: 是 否 难以判断
- 面向技术人员的培训: 是 否 难以判断
- 面向居民的普及、推广: 是 否 难以判断

→请具体阐述对项目计划进行的调整:

()

4. 是否充分建立起日方专家(长期·短期)与中方专家之间的关系?

- 充分 不充分 难以判断

→请指明需要改善之处以及存在的问题:

()

5. 1. 是否充分呼吁项目受益人参与本项目？

充分 不充分 难以判断

2. 目前，项目受益人的反应与项目执行初期相比是否发生了变化？

受益人变得更加积极地参与项目 没有变化 受益人的参与程度降低了

→如选择“没有变化”，请阐述存在的问题以及应采取的改善措施：

()

6. 是否得到了中方实施机构的积极支持？

[1] 在经费分配方面的支持

有 没有 难以判断

建议：

[2] 在配备合适的对口专家方面的支持

有 没有 难以判断

建议：

7. 为提高项目成果，是否在项目实施程序上做了努力？

是 否 难以判断

建议：

PART 2：为进行 5 个科目评估设定的提问

1. 妥当性

1.1 本项目是否与国家的现行政策相吻合？

80%以上相吻合 50%至 80%左右相吻合 吻合程度不足 50%

在国家政策中，本项目与其他项目相比，其紧迫性是否较高？

紧迫性极高 紧迫性高 紧迫性并不太高 紧迫性低

1.2 本项目是否与四川省目前的政策相吻合？

80%以上相吻合 50%至 80%左右相吻合 吻合程度不足 50%

在四川省的政策中，本项目与其他项目相比，其紧迫性是否较高？

紧迫性极高 紧迫性高 紧迫性并不太高 紧迫性低

1.3 您认为本项目是否与项目受益人群(西昌市、喜德县、昭觉县居民)的需求相吻合?

项目开始时与居民需求的一致性

- 苗圃： 需求极高 需求高 需求并不太高 需求低
- 造林： 需求极高 需求高 需求并不太高 需求低
- 面向技术人员的培训：需求极高 需求高 需求并不太高 需求低
- 面向居民的普及、推广：需求极高 需求高 需求并不太高 需求低

→如选择“需求并不太高”或“需求低”，请阐述其理由：

()

目前与居民需求的一致性

- 苗圃： 需求极高 需求高 需求并不太高 需求低
- 造林： 需求极高 需求高 需求并不太高 需求低
- 面向技术人员的培训：需求极高 需求高 需求并不太高 需求低
- 面向居民的普及：需求极高 需求高 需求并不太高 需求低

→如选择“需求并不太高”或“需求低”，请阐述其理由：

()

1.4 在选定项目时，实施了数项调查，最终选定了本项目，该选定过程是否合理、妥当？

- 是 否 难以判断

1.5 为完成项目目标(在位于安宁河流域的西昌市、喜德县、昭觉县形成独立实施造林的基础)，选定采用专项方式技术合作的形式(通过派遣日方专家进行技术指导、接收对象国有关人员进修、提供器材，将这些方式互相组合实施的合作)实施项目，该形式是否合理、妥当？

- 是 否 难以判断

您是否认为有其他合适的合作形式？您对本项目与其他合作形式相结合方面是否有意见、建议？

()

1.6 是否有与其他项目(其他国家的援助组织或国际组织以及日本其他机构实施的项目)之间的关联?

其他项目名称：
实施机构：
是否有关联： 有 没有
建议：

1.7 项目采用的日本技术是否具有优势?

- 苗圃： 是 否 难以判断
造林： 是 否 难以判断
面向技术人员的培训：是 否 难以判断
面向居民的普及、推广：是 否 难以判断

→如选择“否”，请阐述其理由：

2. 有效性

1. 项目目标(在位于安宁河流域的西昌市、喜德县、昭觉县形成独立实施造林的基础)的目前完成程度是否如当初的期待?

- 80%以上如当初的期待 50%至80%如当初的期待 对照当初的期待，完成程度不足50%

2. 上述结果是否是项目成果²所带来的?

- 是(80%以上) 是(50%至80%) 难以判断(50%以下) 否(0%)

2.2. 成果(1~4)虽然已经显现，但是其中是否有对完成项目目标(在位于安宁河流域的西昌市、喜德县、昭觉县形成独立实施造林的基础)贡献度较低的成果?

- 成果1 成果2 成果3 成果4

→阐述其理由与应采取的改善措施：

² 成果 1.开发出适合项目区自然条件与社会条件的造林用苗木生产技术。成果 2.开发出适合项目区自然条件与社会条件、特别是以水土保持为目的的造林技术。成果 3.培养出对育苗与造林活动进行管理、实施、推广的技术人员。成果 4.使当地居民理解保护森林的重要性、使育苗、造林技术得到推广。

2.3. 项目目标(在位于安宁河流域的西昌市、喜德县、昭觉县形成独立实施造林的基础)的完成,是否受到其他项目或者外部条件³带来的正面或者负面影响?

- 受到很大影响 受到很小的影响 完全没有受到影响 难以判断

→请具体阐述:

()

3. 效率性

3.1 取得的成果(1至4)是否与投入(日方、中方)相吻合?

- 苗圃方面取得的成果: 是(80%以上) 大致吻合(50%至80%) 否(50%以下)
 造林方面取得的成果: 是(80%以上) 大致吻合(50%至80%) 否(50%以下)
 面向技术人员培训方面取得的成果: 是(80%以上) 大致吻合(50%至80%) 否(50%以下)
 面向居民普及、推广方面取得的成果: 是(80%以上) 大致吻合(50%至80%) 否(50%以下)

3.2 如果认为开展了有效的投入以及活动,请记述如下:

(
造林:
苗圃:
面向技术人员的培训:
面向居民的普及:
)

3.3 投入的数量、质量、时机的合适程度

3-3-1 日方

a) 1.日方派遣专家的人数、技术水平、时机是否恰当?

- 苗圃: 恰当 不恰当 难以判断
造林: 恰当 不恰当 难以判断
面向技术人员的培训: 恰当 不恰当 难以判断
面向居民的普及、推广: 恰当 不恰当 难以判断

2.专家之间的职能划分是否恰当?

³ 是取得项目成功的重要条件,并且是项目本身无法控制的、现实性极高的条件。例如国家政策不变、不发生大的自然灾害等,均属于外部条件。

专家的职能划分：恰当 不恰当 难以判断

→如选择“不恰当”，请阐述其理由：

[]

b)接收中方对口专家进修的时期、质量、时机是否恰当？

苗圃：恰当 不恰当 难以判断

造林：恰当 不恰当 难以判断

面向技术人员的培训：恰当 不恰当 难以判断

面向居民的普及、推广：恰当 不恰当 难以判断

→如选择“不恰当”，请阐述其理由：

[]

c) 提供器材在数量、质量、时机上是否恰当？

苗圃：恰当 不恰当 难以判断

造林：恰当 不恰当 难以判断

面向技术人员的培训：恰当 不恰当 难以判断

面向居民的普及、推广：恰当 不恰当 难以判断

如选择“不恰当”，请阐述其理由以及应改善之处(例如，应在中国国内采购等)：

[]

d) 当地业务费(一般当地业务费、当地事业费)是否得到有效使用？

苗圃：是 否 部分没有得到有效使用

造林：是 否 部分没有得到有效使用

面向技术人员的培训：是 否 部分没有得到有效使用

面向居民的普及、推广：是 否 部分没有得到有效使用

→如选择“否”或者“部分没有得到有效使用”，请阐述其理由以及应改善之处。

[]

3-3-2 中方

a) 1. 中方专家的配备人数、技术水平、时机是否恰当？

- 苗圃： 恰当 不恰当 难以判断
 造林： 恰当 不恰当 难以判断
 面向技术人员的培训： 恰当 不恰当 难以判断
 面向居民的普及、推广： 恰当 不恰当 难以判断

2. 专家之间的职能划分是否恰当？

- 专家的职能划分： 恰当 不恰当 难以判断

→如选择“不恰当”，请阐述其理由：

[]

b) 在项目用地、房屋、设备的提供方面，其质量、规模、时机是否恰当？

- 苗圃： 恰当 不恰当 难以判断
 造林： 恰当 不恰当 难以判断
 面向技术人员的培训： 恰当 不恰当 难以判断
 面向居民的普及、推广： 恰当 不恰当 难以判断

→如选择“不恰当”，请阐述其理由：

[]

c) 项目的运营经费是否得到有效使用？

- 苗圃： 是 否 部分没有得到有效使用
 造林： 是 否 部分没有得到有效使用
 面向技术人员的培训： 是 否 部分没有得到有效使用

面向居民的普及、推广： 是 否 部分没有得到有效使用

→如选择“否”，请阐述其理由与应改善之处：

[]

3.4 投入得到充分利用的程度与落实程度

a) 日方投入是否得到充分利用？

派遣日方专家： 充分 不充分 难以判断

接收中方对口专家(C/P)赴日进修： 充分 不充分 难以判断

提供器材： 充分 不充分 难以判断

当地业务费： 充分 不充分 难以判断

→如选择“不充分”，请阐述其理由与应改善之处：

[]

b) 中方投入是否得到充分(没有浪费的)使用？

中方专家： 充分 不充分 难以判断

用地、房屋、设备： 充分 不充分 难以判断

项目运营经费： 充分 不充分 难以判断

→如选择“不充分”，请阐述其理由与应改善之处：

[]

4. 影响

4.1 项目结束 4 至 5 年后，对项目最终目标(根据四川省生态环境建设计划，安宁河流域的政府以及当地居民持续开展造林活动)完成程度的预测如何？

预测可完成 80%以上 预测可完成 50%至 80% 预测完成不足 50%

→影响其完成的主要负面因素、正面因素是什么？

[]

4.2 在项目实施中,是否出现计划时没有预料到的正面或负面影响(政策、经济与财政、组织机构与制度、技术、社会与文化)?或者预测将来会出现这样的影响?

- 目前出现了 将来也许会出现 目前没有发生 将来应该也不会出现

→如选择“目前出现了”或者“将来也许会出现”,请具体阐述:

()

5. 独立发展性

5.1 该项目作为发展政策的一个环节,对其持续性的预测如何?

- 预测其持续性可达 80%以上 预测其持续性可达 50%至 80% 预测其持续性不足 50%

5.2 对实施机构具备从国家财政拨款中确保本项目持续实施所需经费的能力的预测如何?

- 预测其能力为 80%以上 预测其能力为 50%至 80% 预测其能力不足 50%

5.3 对实施机构今后具备实施项目的组织能力(技术能力、人事管理能力)的预测如何?

- 苗圃: 预测其能力为 80%以上 预测其能力为 50%至 80% 预测其能力不足 50%
 造林: 预测其能力为 80%以上 预测其能力为 50%至 80% 预测其能力不足 50%
 面向技术人员的培训: 预测其能力为 80%以上 预测其能力为 50%至 80% 预测其能力不足 50%
 面向居民的普及、推广: 预测其能力为 80%以上 预测其能力为 50%至 80% 预测其能力不足 50%

→如选择“预测其能力不足 50%”,请阐述其理由与应采取的改善措施:

()

5.4 预测培养出的林业厅技术人员安心在其工作岗位开展工作的可能性?

- 预测达 80%以上 预测达 50%至 80%左右 预测不足 50%

→如选择“预测不足 50%”,请阐述其理由与建议应采取的措施:

()

5.5 预测项目受益人群——项目区居民对造林活动的参与程度?

预测达 80%以上 预测在 50%至 80%左右 预测不足 50%

→如选择“预测不足 50%”，请阐述建议应采取的措施：

[]

5.6 为提高项目的独立发展性，是否考虑令项目受益者——当地居民负担部分造林经费？

是 否

建议：

[]

6. 其他

如有对本项目的意见或建议，请自由阐述：

[]

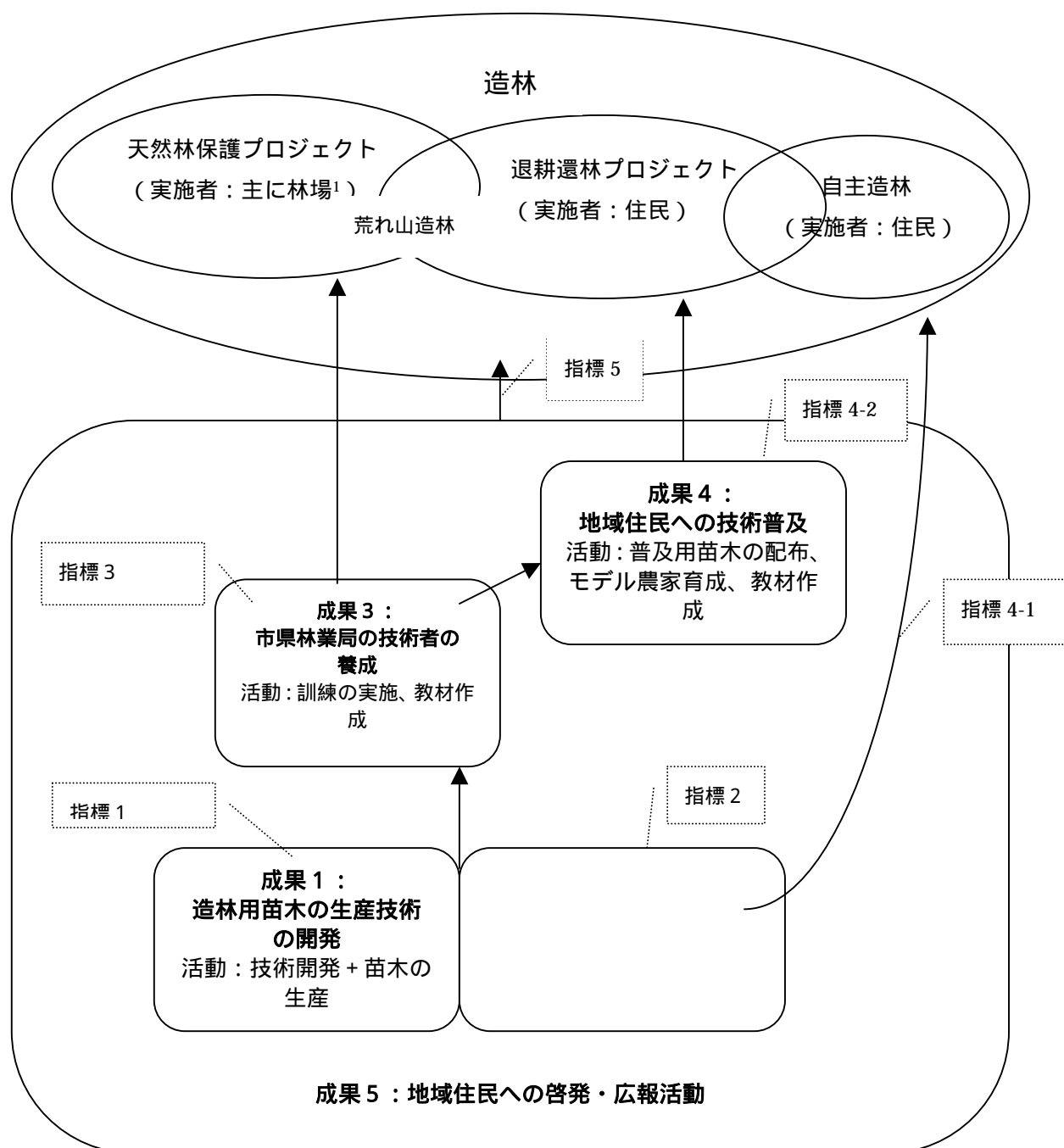
谢谢合作！

8. プロジェクト概念図

プロジェクト概念図

プロジェクト目標： 安寧河流域の西昌市、喜徳県及び昭覚県（プロジェクトエリア）において、地域住民が自立的に造林活動を実施する基盤が形成される。

指標： プロジェクトエリア内で、プロジェクトで開発した技術を用いた中国側（政府・訓練された技術者、住民）による造林面積が 500ha 以上になる。



1： 州政府から独立した独立採算制の企業で、職員を雇用し植林を行っている。